

ふれあい つながり かわら版

第二回小中一貫教育推進 担当者会を終えて

七月二十九日(金)に総合教育センターと各中学校ブロックをオンラインでつなぎ、本年度の第二回担当者会を開催しました。代表校長を務めていただいている安室小学校の角倉校長先生から、「一つ新しい取組を始めるなら、一つやってきたことをやめる勇氣をもちましょう。」と、スクラップ&ビルドの考えをお話しいただきました。その中で、安室中ブロックでは、今まで十年以上、紙で配布し続けてきた「学びのススメ」を見直す機会にしようと言われました。

また、星川幹事長からは、白鷺小中学校のブランドカリキュラムに基づいた実践をもとに、「継続して取り組むもの」「一部見直して続けるもの」「次年度は取組を行わないもの」に分けて、カリキュラムの検証を行っている」と報告がありました。さらに、九月三十日(金)に白鷺小中学校で開催予定の「実践研究発表会」の見どころについても紹介していただきました。この研究会は小中一貫教育推進担当者会の研修を兼ねております。少しでも多くの先生方に、白鷺小中学校の取組を目にさせていただき、各校へ持ち帰って他の先生方にも広めていただけたらと思います。

担当校長先生と幹事長の挨拶の後、第二回の担当者会のメインイベントであります「実践取組発表」を飾磨西中ブロック、鹿谷中ブロックに行っていたいただきました。児童生徒数も立地条件も大きく異なるブロックの発表でしたが、コロナ禍だからやらないではなく、コロナ禍だからこそ形を変えて小中一貫の取組を行

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120



う姿勢や、教科の枠にとらわれず、行事や児童生徒の活動を通して一人一人を丁寧育てていく取組は両ブロックに共通していました。

発表後には、谷外小学校の岸野校長先生から、「飾磨西中ブロックは、大規模校の三校の足並みをそろえるため、同じ講師を招聘してネットトラブルに関する講習会を実施することで同一歩調での指導に生かしている。」「鹿谷中ブロックは、一小一中の強みを生かし、小学校の取組を中学校でも発展させて継続して行うことで中一ギャップの解消につなげている。」など、ご講評いただきました。発表をお聞きになった先生方から、ブロック協議の中で、発表ブロックに対する感想をたくさんいただいておりますので、それぞれのブロックにお伝えします。



オンラインのメリットを生かして、実践取組発表を職員全体で聞く英賀保小学校職員室の様子。
飾磨西・鹿谷中ブロックともに校内研修に位置づけ、自ブロックの発表を聞きました。

終わりの挨拶では、豊富小中学校の山下校長先生から、「本校は、ブランドカリキュラムを作成した三年前は、消費者教育を中心に据えていたが、コロナ禍で校区的様子が大きく変化し、児童生徒数も減少が続いている。小・中学校がお互いの立場を理解した上で、これまでの取組を懐疑的に見て、全国学力・学習状況調査の結果も反映させた新しいカリキュラムに再構成していくことが大切である。」と完成したカリキュラムの見直しの必要性についてお話いただきました。

ブロック協議では、

どんな話し合いが行われたの？

全体会後に行われたブロックごとの話し合いには、事務局からテーマを三つ提示しました。一つは「飾磨西、鹿谷中ブロックの実践取組発表に対する感想」。残り二つは、「ブランドカリキュラムについて」と「見直し可能なブロックの取組について」です。他のブロックでは、どのような話し合いが行われたのか、紹介します。今後の取組の参考にしてください。

ブランドカリキュラムの現状は？

- ・完成に向けてもうひと頑張り
- ・17ブロック
- ・完成したカリキュラムに沿って実践を進めている
- ・12ブロック
- ・完成しているカリキュラムの見直しを進めている
- ・6ブロック

約半数のブロックがカリキュラムに沿って実践を進めたり、見直しを進めたりしています。令和五年二月二十四日(金)がブランドカリキュラムの提出期限となっています。未完成のブロックは完成に向けての取組をよろしく願います。

見直しが可能なブロックの取組は？

- ・小中職員の交流(授業の相互参観・合同挨拶運動)
 - ・カレンダー、ポスター(広報誌)の作成
 - ・学習の手引き(学びのススメ)の配布
 - ・アウト(フー)メディアデー
 - ・地域ふれあい清掃
 - ・地域ふれあい祭り
 - ・小中移動作品展 など
- どうすればより効果的になるのか、紙に印刷するのではなく Chromebook を活用できないかなどが各ブロックで協議されました。



飾磨西中ブロックの協議の様子。ブロックの発表を振り返った後、見直せる取組はないか活発に意見交流されていました。